

# 令和元（平成31）年度 校内研究の全体計画

- 1 研究主題 運動に主体的に関わる児童の育成  
～体づくり運動の学習を通して～

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、『生きて働く「知識・技能」の習得』『未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成』『学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養』の三つの柱に整理された。そして、子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、学習の質を一層高める「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められた。

本校では、平成27年度、「児童生徒の活用力向上研究指定事業」の県指定を契機として4年間、算数科の校内研究を国見中校区3校での共通実践として捉え、小中連携教育を推進させながら取り組んできた。算数科における言語活動の充実を図り、児童が「考えることが楽しい」と思える授業を創造していくことで活用力を身に付けさせたいと考え、1単位時間の中で様々な言語活動の充実を図ってきた。

一方で、児童の運動に対する意欲を高め、運動に親しむ契機になることを目指して、平成29・30年度は佐賀県スポーツチャレンジ事業の「8の字跳び」に縦割り活動の一環として挑戦し、エントリー回数が多さから2年連続、「県教育長表彰」を受けた。

今年度は、「武道等指導充実・資質向上支援事業（兼体育・保健体育指導力向上事業）」の研究実践校として県教育委員会から指定を受け、体育科における実践研究を行う。本事業では、課題が見られる領域の指導を担う教員の資質向上と指導の充実を図るため、指導力向上のための研修会の実施や優れた授業協力者と連携した実践研究等を行い、教員の資質向上と指導の充実を図ることが目的となっている。

新学習指導要領の体育科では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって、心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことが目標となる。

本校では、多くの児童が休み時間には外へ出て体を動かし、サッカーや鬼ごっこなどをして遊ぶ姿が見られ、体育科の授業においても、運動することを楽しみにしているように見受けられる。しかし、その反面、運動を苦手とし一人だけ活動せずにぼんやりとしている児童や、授業中、友達同士でトラブルを起こす児童もいる。また、よく運動する児童とまったくしない児童との二極化が進んできている傾向も見受けられる。

さらに、学校全体で6年間を見通した指導計画や指導の在り方について、共通理解する機会が十分に設けてこられなかったため、体育科の授業の組み立て方や指導法、教員の指導力にもばらつきが見られる。

今年度、本校では、児童や指導者に課題が見られた複数の領域の中から、特に、課題のある領域として、「体づくり運動領域」を選択した。主な理由として、「体づくり運動の指導の方向性が不明確であったこと」、「教師の系統立てられた授業実践も少ないこと」、「児童に、体づくり運動の学習が十分に定着していないこと」などが、挙げられる。

どのように単元を組むのか、授業をどのように展開すれば、児童に体づくり運動の楽しさを味わわせることができるのかを、全職員で理解し合い、実践を通して研究することにより、児童が主体的に運動にかかわることができるようになり、教師の指導力の向上にもつながると考え、本主題を設定した。

### 3 研究の目標

体づくり運動における運動の楽しさを味わわせるような授業づくりについての研究や、その実践を通して、運動に主体的に取り組む児童の育成と、教師の指導力向上を図る。

### 4 研究の仮説

体づくり運動の学習において、遊びの要素を取り入れた授業づくりをすれば、主体的に運動に関わろうとする児童が育つであろう。また、授業の質的改善につながり、教師の指導力も向上するであろう。

### 5 研究の内容と方法

#### (1) 授業作りと理論研究

- ・ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成と授業づくりの研究
- ・ 授業協力者と教員が連携した授業展開のモデル作成
- ・ 研究成果の地域への啓発活動

#### (2) 体育科の学びを支える環境作り

- ・ 児童が運動やスポーツの楽しさを味わうことができるような運動場や体育館の環境整備

#### (3) 児童の意識調査とスポーツテストの活用

- ・ 年度の初めと終わりに行う児童の体育科に対する意識調査の実施と分析
- ・ スポーツテストによる児童の実態把握と体力の変容の分析

#### (4) 道徳科との関連

- ・ 「学びに向かう力・人間性等」を育むための道徳科の全体計画との関連、指導内容及び時期等への配慮

### 6 研究の組織とその内容

#### (1) 組織の内容と役割

##### ① 研究推進委員会

研究全体の方向・進め方の検討・修正をし、研究の円滑な運営を図る。

##### ② 全体会

研究内容や方法についての検討し、共通理解をする。授業研究会を実施し、その後の授業改善に活かす。

##### ③ 学年部会

共同で教材研究をしたり指導案の検討をしたりして授業実践を行い、研究の具体的実践を進め、児童の資料などの収集整理をして、研究の成果の記録と研究資料の提供等を行う。

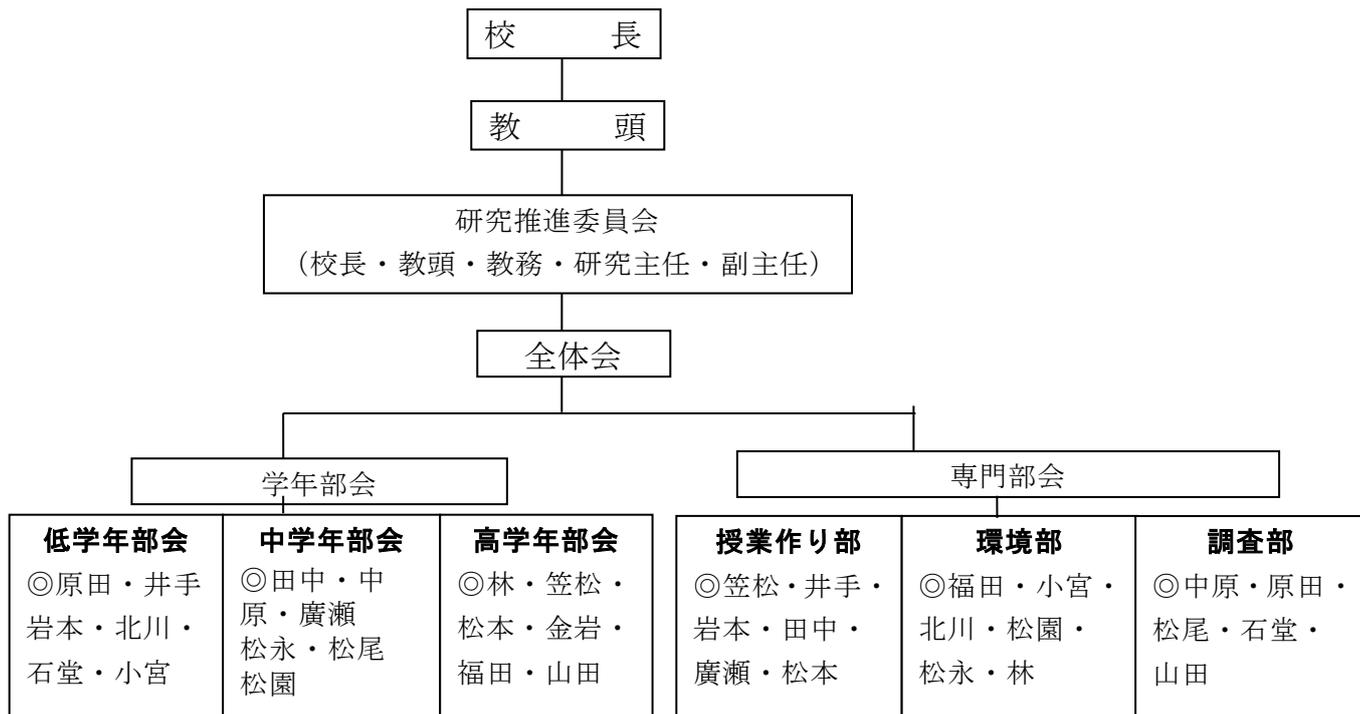
##### ④ 専門部会

授業作り部……体育科の授業づくりについて研究し、推進していく。

環境部………運動場や体育館を中心とした校内の環境づくりを進める。

調査部………児童の体育科に対する意識やスポーツテストの分析、考察をして研究に活かす。

(2) 組織の構成



7 研究の計画

|      |  |
|------|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みについての共通理解</li> <li>・年間計画の作成と検討</li> <li>・学年部会での役割分担，研究授業の計画</li> <li>・専門部会での活動目標，年間計画作成</li> <li>・児童の意識調査の実施（6月）</li> <li>・第1回3校合同研修会（6月）</li> <li>・授業研修会（G研）</li> </ul> |
| 夏季休業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師招聘による理論研究</li> <li>・学年部会による共同教材研究や指導案作成</li> <li>・専門部による計画の実践</li> </ul>   |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表会（11月）</li> <li>・第2回3校合同研修会</li> <li>・児童の意識調査の実施（12月）</li> </ul>   |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門部会のまとめ</li> <li>・学年部会のまとめ</li> <li>・今年度のまとめと来年度の方向性について</li> </ul>   |